

英国の建築に課せられた三つの運命

ホプキンス・アーキテクト プロジェクト・アーキテクト 南雲 要輔

日本では、2019年4月から改正文化財保護法が施行され、国が行っていた文化財行政が、都道府県・市町村の文化財行政に委ねられることになった。市町村が文化財保存活用団体を新たに指定できることで、文化財建造物やまだ価値の定まらない建築の保存・活用が民間の団体や人材に委ねられることになり、設計・監理を行う建築士の判断が重要になっていくと思われる。

英国でも、既存建築の保存・活用は建築士の重要な仕事となっている。ヴィクトリアン・ソサエティ¹やトゥエンティース・センチュリー・ソサエティ²といった保存推進団体が、既存建築の開発に対して意見し行政の判断に影響を与えている。では、英国の保存活動はどのように進められ、建築の未来にどんな影響を与えているだろうか。また、主に木造文化財を保存してきた日本³とどのような考え方の違いが見られるだろうか。

1 奈良の寺々

私が高校生の時、修学旅行の行き先は京都と奈良だった。旅行の前に『奈良の寺々⁴』という本が配られ読むことになり、旅行が近づくと著者の太田博太郎先生を招いて講演をしていただくことになった。古建築の見かたについての講演の最後に、先生は我々に悩みを打ち明けた。古建築の修

復・保存を行う時、新築時の状態に戻すと既存部分と違和感が生じてしまう。しかし、修復部分を既存に合わせると、将来の姿が本来の建築が時を経た姿とは違ってしまふ。先生は、高校生の我々にどちらがよいと思いますかと問いかけた。

太田先生が長年携わった薬師寺の伽藍⁵は、奈良時代の最初の姿へ復原⁶されているから、太田先生の答えは新築時の状態に戻して保存することだったのだと思う。

太田先生は著書『日本の建築 歴史と伝統』、平城宮跡の保存についての章で、1950年に焼けて復原された金閣寺を例に、復原についての考えを記している。文化財の保存は記録作成だけでは不十分で、復原によって一般の広い範囲の人々の理解を得てこそ意義があるとしている。そのために一部遺跡を破壊することは、止むを得ないことで、保存は新しい開発を含めての保存でなければならないとしている。「経済の発展に伴う開発は、つねに自然と歴史の保存に留意しながら進めなければならない⁷。」

2 ラスキンのヴェニス憲章

2019年はヴィクトリア朝時代の美術評論家ジョン・ラスキンの生誕200周年で、英国の各地で記念する催しがあった。ラスキンの美術批評はヴィクトリア朝時代の社会で大きな影響力を

1 The Victorian Society

2 The Twentieth Century Society

3 「文化財における修理の考え方と技術」、『建築雑誌』Vol.116, No.1471, pp.25-30, 日本建築学会, 2001.5

4 太田博太郎『奈良の寺々 古建築の見かた』岩波ジュニア新書43, 岩波書店, 1982

5 『太田博太郎と語る日本建築の歴史と魅力』pp.40-46, 彰国社, 1996

6 改修等で形が変わっていたものを当初の姿に戻すこと。

7 太田博太郎『日本の建築 歴史と伝統』ちくま学芸文庫, pp.281-289, 筑摩書房, 2013

持っていた。ロンドンでの回顧展⁸は盛況で、今でもその人気の高さが窺われた。

ラスキンは、革命や戦争のみならず、改修や復元⁹によって破壊されていく歴史的建造物の惨状を危惧し、1849年の著書『建築の七燈』の中で保存活動のあり方についての考えを記している。失われた建築を再現するのは不可能で、復元は憶測による模倣に過ぎないとしている¹⁰。

このラスキンの思考は、1964年に採択されたヴェニス憲章に影響を与えた。憲章では、復元について推測が始まるところで止めなければならないこと、また記念物が経てきた歴史的変化を尊重した復元がなされなければならないとしている¹¹。

3 リステットビルディング

日本では1996年に文化財登録制度が誕生し、50年を経過した歴史的建造物のうち、一定の評価を得たものを文化財として登録し、登録有形文化財建造物として保存が図られ、活用が促されている。既に1万件を超える建造物が文化財として登録されている。

英国では、30年を経過すると建築的または歴史的な価値の評価対象となり、リステットビルディングとして登録されると保存対象となる。イングランドでは、ヒストリック・イングランド¹²が価値のある建築を政府¹³に推薦し、承認されると登録される。1700年以前の建築で当時の姿を留めているもの、1700年から1850年の間に建築されたもののほとんどはリステットビルディングになっている。1945年以降の建築については慎重な

評価が行われる。リステットビルディングには3種類のグレードがあり、最も価値があるとされるグレードIはリステットビルディング全体の2.5%、次に価値があるグレードII*（ツー・スター）は5.8%、その他91.7%はグレードIIとなっている。現在、50万件ほどのリステットビルディングがある。

リステットビルディングに登録されると、その価値に影響する改修などに許可¹⁴が必要になるが、他の建築同様に活用され、改造・増築もされる。政府の指導によっては取り壊されることもある。地方自治体は、建築の歴史的価値に機能性や現実的な実行可能性を考慮して改修等の許可を与える。

新しくても、特に優れた建築でグレードIやII*の価値が認められれば、例外的に30年を待たずにリステットビルディングとなる。英国で最も早くリステットビルディングとなったニープ・ブラウン設計のアレクサンドラ・ロード再開発集合住宅¹⁵は1979年に竣工し、わずか14年後の1993年にグレードII*リステットビルディングとなった。

4 保存対象建築の復原

スコットランドでも、イングランドと同様にヒストリック・エンバイロンメント・スコットランド¹⁶がリステットビルディングの登録を行い、4.7万件ほどの建築が登録されている。グレードもイングランドと同様に三つに分けられているが、カテゴリーA、B、Cという名称になっている。

チャールズ・レニー・マッキントッシュが設計し、1909年に図書館を含む2期工事が完成したグ

8 John Ruskin, *The Power of Seeing*, Two Temple Place, 26 January - 22 April 2019

9 失われた建物を再現すること。

10 John Ruskin, *The Seven Lamps of Architecture*. New York: John Wiley 1849, pp.160-164.

11 The Venice Charter (1964 Charter for the Conservation and Restoration of Monuments and Sites) Article 9 and 11

12 Historic England 正式には、Historic Buildings and Monuments Commission for England

13 Secretary of State for Digital, Culture, Media and Sport (DCMS)

14 Listed building consent

15 拙著「海外事情 [4] 失われてゆく英国の工事監理業務、1 サッチャリズムの功罪」、『建築コスト研究』No.104 pp.38-39、2019.1及び「建築と都市の発展を牽引する英国の公共建築、1 カムデンの高密度低層集合住宅 / 2 建設工事標準請負契約約款の発展」、『建築コスト研究』No.108, pp.5-9, 建築コスト管理システム研究所, 2019.1

16 Historic Environment Scotland (HES)

ラスゴー美術学校¹⁷は、1966年にグレードAリストビルディングとなった。

その後、2014年5月23日に地下室で出火したと考えられている火災により、マッキントッシュの代表作である図書館やガラス張りの廊下のある西側部分が破壊された。そして、修復・復原のために、既にマッキントッシュの商業施設や住宅を修復した経験のある地元グラスゴーの設計事務所ページ・パーク¹⁸が設計を依頼された。

修復にあたっては、出来る限り残されたものを再利用し、再利用できない部分は元と同じ素材で置き換えられた。例えば、照明器具の修復では、28個が火災現場から回収された素材をリサイクルしてレストアされ、7個は回収された素材と新しい素材との混合、18個は新しい同じ素材で制作された。焼けたスタジオの柱は、米国マサチューセッツ州ローウェルにあった1904年に建造された工場の解体現場から同じ樹種サザン・イエロー・パインの梁8本をグラスゴーに運び、釘穴の状態等を考慮して最もオリジナルに似た4本を選び使



写真1 グラスゴー美術学校西塔(1999年筆者撮影)

17 The Glasgow School of Art リステットビルディング登録名前は、167 Renfrew Street and 11, 15 Dalhousie Street, Glasgow School of Art

18 Page/Park Architects

用された¹⁹。マッキントッシュは当時、設計にあたり図書館の内装にオークを使おうとしたが、予算が合わずにチェリーウッドで補強のためのスプルースを挟んだ柱が使用されていた。復原ではマッキントッシュの意図ではなく、実際に使われていたスプルースを挟んだチェリーウッドの柱が正確に再現された。

ページ・パークは既存建築をすべて3Dレーザー・スキャニング、ポイントクラウド・ソフトウェアで測量し、正確なBIMモデルを構築して設計を行った。この改修・復原工事には5,100万ポンド(約76.5億円)がかけられた²⁰。延床面積が6,500㎡なので、7,846ポンド/㎡(坪単価約389万円)である²¹。同時期に建てられた同規模のバース大学建築学部の新築校舎が、延床面積6,000㎡、総工事費2,300万ポンド(約34.5億円)²²、3,833ポンド/㎡(坪単価約190万円)だったことと比べると、復原の工事費はかなり高い。

しかしながら、2019年に新築時のように生まれ変わり再びオープンする予定だったマッキントッシュの名作は、2018年6月15日、復原工事現場での出火により、再び炎に包まれてしまった。

5 東京駅保存と丸の内

かつて皇居へのメインストリートだった丸の内の馬場先門通りは、1894年に竣工した、英国人建築家ジョサイア・コンドル²³設計による煉瓦造り、軒高50尺(約15m)の三菱一号館を契機として、ロンドンのシティにあるロンバード街²⁴にならった一丁倫敦と呼ばれる整った街並みを形成してい

19 *The Mackintosh at the Glasgow School of Art*, <http://www.longleaflumber.com/the-mackintosh-at-the-glasgow-school-of-art/>

20 Jan-Carlos Kucharek. "Art therapy." *The RIBA Journal*, March 2018, vol. 125, issue 03: pp.32-35.

21 <http://pagepark.co.uk/project/architecture/glasgow-school-art/>の床面積を使用した。

22 Eleanor Young. "Design Factory." *The RIBA Journal*, March 2018, vol. 125, issue 03: pp.16-20.

23 Josiah Conder

24 Lombard Street

た。

1914年に、辰野金吾の設計による東京駅駅舎が完成すると、幅員40間（約72m）の中央停車場と皇居を結ぶ行幸道路が1926年に完成し、鉄筋コンクリートによるビルが建てられていく²⁵。その行幸道路沿いの建築の高さは、1962年の建築基準法改正で撤廃されることになる31m（百尺）の高度制限により揃っていた。この高さ制限は、1956年に撤廃されるまでセント・ポール大聖堂の景観を守るためにあった100フィート（約30.5m）のロンドンの高さ制限に符号する²⁶。この規制の拠り所は、セント・ポール大聖堂の基壇のコーニス下部の高さ99.9フィート（30.4m）²⁷なので、東京駅前の景観もまた、ロンドンのようにセント・ポール大聖堂基壇の高さと同じに揃っていたことになる。

1968年に日本初の超高層ビルが霞が関に建つと、東京海上火災ビルが30階ビルの申請を東京都に出して丸の内美観論争が起こるが、25階100mに高さを抑えて審査をパスし1973年に竣工²⁸すると、論争は消え丸の内は開発へと進んでいった。

東京駅丸の内駅舎は、1945年に戦災により3階部分を焼失し復旧工事が行われた後、2階建ての駅舎として用いられていた。1965年から1985年にかけて丸の内に高度100mのビルが建ち始める頃、国鉄の建設部にも東京駅高層計画があった²⁹。

1987年に国鉄が分割民営化されると、JR東日本は東京駅の将来像に自主的な決定権が与えられ、国や運輸省の意向を踏む必要がなくなった。同年、赤レンガの東京駅を愛する市民の会が設立され、保存運動が始まった。1999年に保存が決定されると、保存の目標は当初復原と定められた。

赤レンガの東京駅を愛する市民の会の代表委員として太田博太郎は保存活動に傾注していた。2003年に東京駅丸の内駅舎は国指定の重要文化財建造物となった。当初部材の残存率を最大にすることが目標とされ、失われた3階部分の再建による構造にかかる負担を軽減するために免震化が図られ、2012年に竣工した。一般的に重要文化財を修理する場合には、国が工事費の半額を補助し、残りを地方自治体が補助して所有者の負担が抑えられるシステムがあるが、文化庁の予算規模では東京駅のような大規模な建物の補助金を支出しきれない。2002年に特例容積移転制度が制定され、東京駅の保存によって余裕が生じる容積を、周辺の建物に移転・転売することで約500億円と言われる事業費は捻出された。都心の大型近代建築保存・修理事業は似た手法で行われている。こうした制度下では、文化庁は事業の指導をする力を持ってないし、助言くらいしかできない³⁰。

東京駅上空の未利用容積は、新丸の内ビルディングほか、六つの丸の内のビルに移転され、それぞれ高層化された³¹。これにより新丸の内ビルディングの容積率は従前1,300%から許容容積率1,760%となった³²。東京駅の保存・復原工事は、結果として丸の内の景観を更新した。丸の内のスカイラインは、東京海上火災ビル以来定着しつつある概ね100m程度の高さを尊重しながら、概ね150m程度の高さまでを可能とし、拠点においては、街並みの多様性の表象として、概ね200m程度の高さまで可能とされている。また、街並みを形成する主要な通りについては、歴史的な31m（百尺）のスカイラインを表情線等として継承していくとされている³³。

25 『MARUNOUCHI BUILDING』(株)三菱地所設計、(『新建築』2002年10月号別刷)

26 Historic England, *London's Image and Identity, Revisiting London's Cherished Views*, pp.8-12, Historic England 2018

27 City of London, *Protected Views, Supplementary Planning Document, Adopted 31st January 2012*, p.12, Department of the Built Environment, City of London Corporation, 2011

28 現在の東京海上日動ビルディング本館、設計・前川國男

29 前野まさる「東京駅保存運動」、『赤レンガの東京駅を愛する市民の会25年』pp.2-4, 赤レンガの東京駅を愛する市民の会, 2014

30 鈴木博之「東京駅保存・復原の歩み」、『赤レンガの東京駅を愛する市民の会25年』pp.6-8, 赤レンガの東京駅を愛する市民の会, 2014

31 「日本型「都市再生」はどのように生まれたか」、『建築雑誌』Vol.134, No.1725, pp.38-41, 日本建築学会, 2019.6

32 「新丸の内ビルディング」『新建築』第82巻7号, p220, 新建築社, 2007.6

33 『大手町・丸の内・有楽町地区 まちづくりガイドライン 2005』p31, 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり懇談会, 2005

新丸の内ビルディングのコンセプト・デザインは、そうしたガイドラインに従いながら、東京駅保存決定前に設計された丸の内ビルディングより増えた容積率と、200mの高さをどのように周囲と調和させるかがテーマだった。高層部を分節し、南側、北側をそれぞれ隣接するビルの高さへ近づけて調和を図っている。高さ31mの低層部は、既存と同様に東京駅側の角を丸くして隣の丸ビルと揃え、低層部屋上7・8階部分のガラス・ファサードをセットバックさせて高層部と明確に分節し、かつての31mの軒線を強調している。

6 ヴィクトリアン・ソサエティ

1850年以降の建築は、まだリステットビルディングになっていないものも多い。ヴィクトリア朝の時代(1837～1901)の建築はあまり評価されず、多くが戦後復興の中で姿を消した。そうした動向に憂慮した識者により、1958年にヴィクトリア朝の時代の建築と芸術を保護し評価するために、ヴィクトリアン・ソサエティが設立された。



写真2 新丸の内ビルディング(2007年撮影:鈴木研一)

設立当初から、ヴィクトリア朝だけでなくエドワード朝の時代(1901～1910)とその後第一次世界大戦の勃発する1914年までを含む期間を対象としている。ヴィクトリアン・ソサエティは、大きな有名建築に限らずごく普通の19世紀建築でも、それが時代の特徴を持ち周囲にたいして魅力があれば保護した。その活動はロンドンに留まらず、英国全土を対象としている。設立当初はなかなかうまく保存活動が実を結ばずに重要な建築が失われたが、やがて社会から支持を得られるようになった。1966年にブリティッシュ・レール(英国鉄道)がセント・パンクラス駅を取り壊そうとした際には、駅をグレードIリステットビルディングにして取り壊しを回避することに成功している。英国政府からもその活動が認められるようになり、1969年からは法的にも認められ、対象とする時代の建築の取り壊しを伴う開発に対しては、開発許可に際してヴィクトリアン・ソサエティの意見を求めなければならなくなっている。1973年からはその活動資金は政府から援助されている³⁴。

2012年のロンドンオリンピックに先駆けて、ロンドンに四つある世界遺産の一つ、海事都市グリニッジ³⁵にあるグリニッジ・マーケットの再開発に携わったことがある。マーケットは保存地区内、20棟ほどのグレードIIリステットビルディングに囲まれた街区の中にある。マーケットは地方自治体が独自にリステットビルディングとしていたが、1950年代に建てられた店舗に囲まれ、1908年につくられた屋根はプラスチックの波板に葺き替えられ古びていた。我々はいくつかのオプションを検討した後、戦後に建てられた部分とマーケットの屋根を取り壊し、新しいマーケットとホテルなどを含む複合施設を建てる案を作成した。開発申請に際しては、展示会などを通して住

34 <https://www.victoriansociety.org.uk/about/history-of-the-victorian-society>

35 Maritime Greenwich

民の理解を得て、CABE³⁶のデザイン・レビューでも高評価を得た。イングリッシュ・ヘリテージ³⁷とユネスコからの支持も得て、開発申請を提出したが、意外なことに申請は拒否された。ヴィクトリアン・ソサエティが、独特の個性を持つマーケットの屋根、玉石の舗装³⁸、かつての厩舎³⁹を壊すことに異議を唱え、それらを保存しても同様の開発は十分可能だとした。我々はヴィクトリアン・ソサエティの影響力を思い知らされ、指摘されたヴィクトリア朝時代の部分を残す案を改めて作成することになった。

7 愛するか、失うか⁴⁰

1837年から1913年に建てられた建築を対象とするヴィクトリアン・ソサエティにならい、1914年以降に建てられた建築を守るために1979年、トゥエンティース・センチュリー・ソサエティ(C20)が設立され、20世紀の建築の評価と保存



写真3 グリニッジ・マーケット (2007年撮影、ホブキンス・アーキテクト提供)

36 Commission for Architecture and the Built Environment 拙著「海外事情 [4] 失われてゆく英国の工事監理業務、7 歴史は繰り返す」、『建築コスト研究』No.104, pp.44-45, 建築コスト管理システム研究所, 2019.1

37 1983年にイングランドの歴史的建造物を保護する目的で英国政府により設立された組織。2015年4月に歴史建造物を保護するEnglish Heritageとリステットビルディングや開発に関わるHistoric Englandに分けられた。

38 Cobble street surface

39 Stables building

40 Love it or lose it

推進を行っている⁴¹。「愛するか、失うか」といった標語を掲げ、取り壊しの危機にある優れた建築がリステットビルディングとなるようにキャンペーンを展開している。

C20は2018年までの8年間、ロンドンのオフィス・コンプレックスであるブロードゲートを保存するためのキャンペーンを展開した。ブロードゲートのマスタープランと1期から4期までは、当時、アラップ・アソシエイツにいたピーター・フォッグ⁴²が設計し、1985年マーガレット・サッチャーによる起工式が行われ、1987年末にオープンした。ブロードゲートは、芸術作品などを配した開放された空地を含み、1980年代の好景気を象徴したデザインで、竣工当時、建設業界の各賞を受賞した。

30年を経過するとリステットビルディングへの評価対象になることは、皮肉にも30年を経過する前に建物を建て替えたいという持ち主の動機になる。そうした持ち主のためにサーティフィケート・オブ・イミュニティ (COI)⁴³というシステムがある。建物の所有者は、ヒストリック・イングランドに鑑定してもらい、政府がCOIを発行すると、5年間はリステットビルディングにならないことになり安心して再開発を進めることができる。

ブロードゲートの現在のデベロッパーは、3期に分けて再開発を進めた。2011年最初の開発に際して、C20のキャンペーンはヒストリック・イングランド⁴⁴を動かしブロードゲート全体がグレードII*に値すると評価された。しかし、政府はまだ30年に満たないブロードゲートをリステットビルディングに加えることを拒否、COIが発行され約3分の1が取り壊され、建て替えられた。この結果を受けて、2012年、C20は30年を経過する2015年7月に残された部分がリステットビル

41 設立時の名称は、The Thirties Society。1992年に現在の名前に改称した。

42 Peter Foggo

43 Certificate of Immunity from Listing (COI)

44 当時、1984年4月から2015年4月までの名称はEnglish Heritage。

ディングとなるようにヒストリック・イングランドを促し、残された部分がグレードIIに値するという鑑定を得た。しかし、政府は再び残された部分をリステットビルディングとすることを拒否し、COIを発行した。政府はブロードゲートに他の80年代の商業建築を超える特別な歴史的価値はないとし、80年代のビッグバン（金融大改革）を体現する建築としてはドックランズ再開発のカナリーワープの方がふさわしいとした⁴⁵。

この2期目の再開発、100リバプールストリートのための設計競技が行われ、ホプキンス・アーキテクトの案が選ばれた。我々は既存建築を分析し、テナント事務所として使いにくい大型トレーディングスペースのための分散コア配置を使いやすいようにセンターコアに整理した。既存ファサードはピンクの御影石によるブリーズソレイユに覆われ昼光を十分に利用できなかったため、熱負荷の許す限り大きな開口を持つガラス・カーテンウォールに取り換え、室内からの眺望も改善した。外部のアルミニウムの仕上げは、安価だが退色・劣化するポリエステル粉体塗装⁴⁶ではなく、30年後の姿を想いながらグレー陽極酸化処理仕様⁴⁷とした。この仕上げは1960年代に日本で商品化⁴⁸されたが、日本ではあまり使われていな



写真4 100リバプールストリート（2019年筆者撮影）

い。ヨーロッパでもサプライヤーが限られるため、英国、スペイン、イタリアのサプライヤーを探し出して見本と見積りを取り寄せ比較し、最も安価で満足いくイタリアのサプライヤーを使うことができた。周囲の景観への影響を最小限にしながら可能な限り増床した。北側にある公開空地、ブロードゲート・サークルへ既存建物以上の影を落とさないように、慎重にセットバックさせながら3層を積み増した。敷地の地下を横断する鉄道への影響を配慮し、可能な限り既存の構造を活用し、空地にある既存の芸術作品も保存しながらリバプールストリート駅からブロードゲート・サークルへ至る商業施設のある公開通路のアクセスを改善した。

2015年1月に開発許可申請を提出すると、C20は2月、保存活動の経緯を詳述した12頁の手紙をロンドンの申請課へ提出、7月に30年を迎える建物がリステットビルディングに値すると評価されたことを訴えた。C20の主張は認識されたが、申請の許可に影響を与えるには至らなかった。

2018年、C20は最後に残された建物を再びリステットビルディングとすべくヒストリック・イングランドに働きかけた。建物は既に30年を経過していたが、今度はヒストリック・イングランドがリステットビルディングには値しないと判断しCOIが発行された。ブロードゲートは評価され商業的にも成功した都市計画の見本だったが、その全体像は既に失われてしまっているとされた⁴⁹。

英国建築の標準的な設計寿命⁵⁰は60年⁵¹（構造躯体は50年⁵²）とされている。サッチャリズムの象徴の一つは、その寿命の半ばで姿を消した。

49 *Historic England's decision paves way for demolition of final surviving unaltered elements of Broadgate*, www.c20society.org.uk, 25/09/2018

50 Design life

51 BSI. *BS ISO 15686-1: 2011 Buildings and constructed assets - Service Life planning, Part 1: General principles and framework*. Table B.1 (p.16). London: BSI 2011. 及びBSI. *BS 7543: 2015 Guide to durability of buildings and building elements, products and components*. Table D.1 (pp.36-37). London: BSI Standards Limited 2015.

52 BSI. *BS EN 1990: 2002 + A1: 2005 Eurocode - Basis of structural design*. Table 2.1 (p.28). London: BSI 2010.

45 Joey Gardiner, *Government will not list Broadgate*, Building.co.uk, 17 January 2013

46 Polyester Powder Coatings (PPC)

47 Grey Anodising

48 <https://www.unitedanodisers.com>

8 既存活用の効果

人々から愛され文化財となった建築は保存対象となり、愛されず機能的にも社会に適応できなくなった建築は容赦なく失われる運命にある。保存対象とならなくても、その建築に改良の余地が残されていれば延命が図られる。

ロンドンの聖トーマス病院にある地下1階地上12階、200床の病棟イーストウイングは50年代後半に設計され1966年に竣工し使用され始めて18ヵ月後くらいから雨漏りが報告されるようになった。90年代から度々外装の調査が行われスレートの外壁とチークの窓枠のジョイント部分のシーリングの劣化や防水層の不備などが報告され、新しい外装を被せる等の改修案が作成されたが実施には至らなかった。2009年にはコントラクターも参画した本格的な改修計画が立案されビジネスケースコンサルタントによる予算案も作成された。新しい外装とともに、不足するエレベーターと設備シャフトの増設、新しい内部のレイアウトによる内装工事も含み7,500万ポンド（約112.5億円）の予想事業費が試算された。工事は現在使用されている病室を敷地内の他の病棟に移設して行うため複雑な運営計画が必要になり高額になる。新築するとなると既存撤去や躯体工事に更にコストがかかる。



写真5 聖トーマス病院イーストウイング、南側アトリウム、左側の新設ガラス・ファサードにより内壁となった右側既存ファサード（2015年撮影：Jenie Airey）

最終的に、病棟を運営していくために欠かせない新しい外装工事、エレベーターと設備シャフトの増設のみ行い工事中も病棟を使い続けることになった。2010年に王立英国建築家協会（RIBA）主催で設計競技が行われ、ホプキンス・アーキテクトの案が選ばれた。その事業費は全面改修よりはるかに安い2,100万ポンド（約31.5億円）とされた。我々は既存建築を検証し、外装のスレートパネルやチークとステンレスの窓枠を新しい外装で隠蔽したり、アルミサッシに取り換えたりすることはもったいないと感じた。自然素材や材質そのままの仕上げ⁵³が時を経たマチエールは味わい深い。この既存建築の素材を活かしたい想いと、病棟を使い続けながら工事をしなければならない制約から、既存建築への干渉を最小限にしながら病棟をシングルグレーディングで覆い既存の外装を内装として使い続ける提案が生まれた⁵⁴。イーストウイングは、半世紀を経てようやく竣工時からの雨漏りから解放され、現代にふさわしい環境性能と設備を与えられた。生まれ変わった建築は、新たな時を刻み始めた。

< 筆者略歴 >

1966年東京生まれ。1990年日本大学大学院修士課程修了後、竹中工務店設計部勤務。2001年AAスクール大学院デザイン・リサーチ・ラボ修了後、ホプキンス・アーキテクトに入社。作品に「新丸の内ビルディング」「ハックニーサービスセンター」「プレント・シビックセンター」「聖トーマス病院イーストウイング」ほかがある。

53 Self-finish 材質そのまま、塗装等を施さない仕様

54 聖トーマス病院イーストウイングについては、拙著「海外事情 [6] 設計に関与する英国のコントラクター、3 既存建築と都市の再生」『建築コスト研究』No.106, pp.75-77, 建築コスト管理システム研究所, 2019.7